

成果指標				
成果指標	後期高齢者医療保険料徴収率			
指標設定の考え方	保険料の収納状況を示す徴収率を指標とすることで、制度の健全な運営に必要な医療給付の財源確保に対する成果を測る。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	100	100	100	100
実績	99.52	99.58	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	<p>高齢者医療確保法に基づく後期高齢者医療制度で定める市の業務であり、民間委託は認められていないため、継続は妥当と考えます。</p> <p>28年度にコンビニエンスストアでの収納が開始となる予定で、今後、納付機会が拡大することで収納率向上が図られます。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	<p>H20.4に始まった本制度は県内で広域連合を組織して、運営に当たっている。保険料の徴収について市が担当しており、今後においても全国レベルの制度であるために継続が必要である。なお、H29.2を目処にコンビニ収納を導入予定であり、その後収納率アップを目指していきたい。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題